

男女がともに 輝くために

美浦村男女共同参画
～共に輝くみほの会～

問合せ 企画財政課
☎029-885-0340(内)208

多様性と古い文化

中山 万律子

近年、全国的に制服を変更する中学校や高校が増えています。

主な理由としては、

- ・暑さ寒さ対策…特に温暖化
- ・機能性…ストレッチ機能等
- ・利便性…洗いやすく、乾きやすい等
- ・多様な性への対応…ジェンダーレス

…などが挙げられます。

以上の理由から、今までの『男子は学ラン、女子はスカート』といった主な制服スタイルから、『上はブレザー型、下は男女問わずスラックスやスカートが選択できる』という

スタイルにする学校が多いようです。

美浦村立美浦中学校も令和8年度より新制服の導入を予定し、今年度より制服検討委員会が開かれています。委員会には先生方や保護者、地域の方が参加して、生徒や全村の小学校児童とその保護者などにもアンケート調査などを実施し、話し合いが行われています。

多様な考えが尊重され、選択肢が増え、機能的・利便的かつ快適に着用できる制服に変わることに対してわたしは賛成です。

実はわたし自身も小学校6年生の時に、中学校の制服のスカートを嫌がり、母に制服を着たくないと言って困らせた経験があります。

わたしの場合、理由は機能性でした。活発で行動的な性格のため、小学校生活でスカートを履いて登校したことがなく、不慣れなスカートで日常生活を送ることに不安を感じ、母に相談したのです。

わたしが中学生だった30年前はもちろん制服に選択肢はありませんでした。そのため毎日スカートの下に短パンを履き、過ごしていました。

当時、もしわたしが制服を選ぶことが出来たなら、きつとズボン型の制服を選んでいただろうなと思います。そして、あの時の母の困った顔も見なくて済んだかなと…。

ただそれとは反対に、制服が変わることにに対し、寂しい気持ちにもなります。息子が着ている学ランを見ると、学ラン姿の学生が見られなくなってしまうのかとも思うのです。

制服だけでなく、多様性という新しい文化を取り入れていくことで、古い文化が風化してしまうと感ずることがあります。

多様性と古い文化と。
どちらも大切にしたいですね。



みほ文芸

正調俚謡 日和吟社 字結び「山・茶・花」

友の呼ぶ声垣根の向こう白い山茶花朝の通学路

花壇寂しく季節は冬へ一人愁いて庭眺め

山に分け入り麓を見れば茶々を入れてる三歳児

越えた山坂辿った道も今じゃ感謝の夫婦旅

寒い北風山茶花咲いて子らの声する通学路

甲斐の山々やさしく包み仰ぐ富士山薄化粧

小春日和の縁側日向庭の菊花と猫と吾

よくぞ今日まで山坂越えた夫唱婦随で五十年

紅茶飲み過寝むれぬままに過ぎた初恋偲ぶ夜

冬の衣が群青色に変えて凛々しい筑波山

暮れの剪定亡き父想う松に山茶花年始待つ

体気遣い送ってくれたよもぎ紅茶に愛を添え

赤い山茶花人影長く惜しむいく年戻り道

課題山積み少数与党暗い船出の石破丸

亡夫の分まで生きると決めて目指す百歳山高し

寒さつらいな動けぬ体菊の花だけ凛と咲く

十二月の俳句(題 当季雑詠)

源氏読む寂聴訳に秋深し

石路や五浦海岸波静か

白障子人の心もなごみたる

再読書記憶旅する長き夜

落葉掃く頭抱える大樹かな

寒鰯と義兄の癖字の文届く

小春日や木陰日向を車椅子

黄菊摘み久方振りの日本酒か

戦跡の平和の集い銀杏散る

追ひ抜かれたんだん遠く落葉道



(五十音順)

石戸律華

伊藤葉子

井戸賀蘇道

上野八千代

小蘭江久美

門脇悠美

関根秀子

高橋一步

田島草実

塚本夏雲

沼寄朋香

長谷川悦子

増尾青蓮

山岡亜子

山崎笑子

山崎泰弘

(五十音順)

市川紀行

海道民子

高柳幸子

田島早苗

中島輝子

長田敏笑

増尾尚子

松葉統子

村崎典子

山口美代子